

## 評価結果報告書

### 地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	1473600425
法人名	社会福祉法人 秀峰会
事業所名	グループホーム風の生活館
訪問調査日	平成21年7月9日
評価確定日	平成21年8月25日
評価機関名	株式会社 R-CORPORATION

#### ○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

#### ○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

#### ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成 21年 8月 25日

## 【評価実施概要】

事業所番号	1473600425
法人名	社会福祉法人 秀峰会
事業所名	グループホーム風の生活館
所在地	横浜市泉区和泉町5932-3 (電話) 045-800-5555

評価機関名	株式会社 R-CORPORATION		
所在地	221-0835 横浜市神奈川区鶴屋町3-30-8 SYビル2F		
訪問調査日	平成21年7月9日	評価確定日	平成21年8月25日

【情報提供票より】(平成21年7月1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成	13年	3月	1日	
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9	人	
職員数	10 人	常勤	6人, 非常勤	4人, 常勤換算	8.0人

### (2) 建物概要

建物構造	木造(ツーバイフォー)造り
	2階建ての 2階 ~ 2階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	72,000 円	その他の経費(月額)	45,500 円	
敷金	有( 円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 350,000 円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	1100 円		

### (4) 利用者の概要( 月 日現在)

利用者人数	9名	男性	名	女性	9名	
要介護1	1名	要介護2	1名			
要介護3	2名	要介護4	4名			
要介護5	1名	要支援2	名			
年齢	平均	85歳	最低	75歳	最高	92歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	横浜新緑病院
---------	--------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

経営母体は秀峰会、テーマは「天に星、地に花、人に愛」でこれに沿った確固たる理念があり、これを勿論、事務所が目立つ所に掲示するとともに、パンフレット、名刺においても記載、一貫した介護ポリシーで関係事業所全体に展開している。ロケーションはいずみ野駅からバスで3つ目、かまくら道からちよつと入った位置にあり、駅から近く、ご家族が訪問しやすい地理にある。施設の1Fはデイサービス、2Fがユニットのグループホームとなっている。平成13年から既に8年余を経過し地域との一体感も構築出来ている。医療連携体制については近くのクリニックと週1回の訪問看護ステーションとの協力体制が非常に上手く回っており、訪問看護は定期訪問の他、医学面での相談、処理の対応など気軽に電話相談に応じてくれるのと、電話で埒が明かない時にはフットワーク軽く来て診てくれるのでご家族はもとより職員も安心できる状況となっている。特に個別対応に力を入れ、例えばお誕生会などでも個々の好みや体力に合わせてアイデアを出し、突飛なものまで含めてその人に楽しんでもらえる企画を立て実施している。防災については系列各ホームとも3日分の備蓄を持つ体制が整った。新規入所職員に対するプログラムを実施しており、最近超ベテラン職員の受入も同じプログラムで実施した。兎角、分かっていると端折り勝ちな引継ぎがキチンと為される面で有効であり、今後の継続を期待している。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p><b>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</b></p> <p>業務体制の中で職員の昼の休憩がきちんと取れる体制が取れているグループホームは非常に少ない。のべつ緊張してケアを続けることが美德と思われがちだが疲労、特にメンタル面の疲労はボカミスに繋がる危険性を孕んでいる。昼をきっちり休んで、心身ともフレッシュシスの無いケアに努める必要を実現するシフトに取り組んだ。代わりがないと休憩は取れないことで、昼の短時間パートを採用しているホームもあるが、ここは同じスタッフで短時間勤務(5時間シフト)を取り入れた。勤務の開始、終了時間も検討しシフトを組み実践している。まだ結論が出る段階ではないが、同じメンバーであるので安心して休憩はとれており、シフトにも全員協力的であるので実施しつつより良いシフトを固めて行きたいと考えている。</p>
	<p><b>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</b></p> <p>年1回の自己評価、外部評価を事務所の理念の再確認、グループホームの長所及び改善すべき点の認識の機会とし日常活動に生かしている。秀峰会のグループホーム事業部では各グループホーム合同で評価の項目別検討を行っており、特に日常活動に密着した項目の点検・反省・改善に生かしている。秀峰会全体として事例発表会を開催しており、改善事例の共有化に努め改善に取り組んでいる。</p>
重点項目②	<p><b>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</b></p> <p>泉区では平成19度は運営推進会議を区が主催して開催、平成20年度は年4回の開催のうち2回はブロック別、2回は事業所別に開催、平成21年度は事業所別に開催し、必ず泉区若しくは地域包括支援センターが出席することとなった。(両者出席もある) メンバーは町内会長、ご家族、泉区職員、地域包括支援センター職員にホーム関係者である。テーマとしては具体例を挙げてご意見を聞く方式が定着しており、テーマを投げかけ、本人の希望達成への意見を頂きつつ地域、本人、ホームの連携を深めるよう努めている。</p>
重点項目③	<p><b>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</b></p> <p>ご家族とは開所以来8年を経過して、親密な関係が構築出来ている。コミュニケーションは来訪時、毎月の手紙、個別の電話などで充分取れている。旅行や遠出、各種イベントに際しては参加、協力をして頂いている。また帰宅願望の強い人の場合には夕方、決まった時間に電話してくれるよう話し、協力してもらっているご家族もある。運営推進会議を通じて代表の家族同士が友人となり仲良くなったケースもある。特に個別対応に力を入れ個々の好みや体力に合わせてアイデアを出し本人に楽しんでもらえる企画を立て実施している。</p>
重点項目④	<p><b>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</b></p> <p>開所以来8年の実績は大きく、近隣との関係は年とともに深まっている。デイサービスとグループホーム共催の秋祭りには地域の方をお招きし、ソーメン流し、すいか割りなど盛大に実施する他、グループホーム独自で駐車場で近所の子供たちと一緒に花火大会なども恒例化している。この地域の地域包括支援センターは活発でイベント等で協力関係が出来ている。自治会の活動やイベントへの参加、小学校行事への参加など地域に密着出来ている。防災については系列各ホームとも3日分の備蓄を持つ体制が整った。</p>

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者の力を発揮できるような関わり、生活を共にするパートナーとしての関わり、その人らしく生き生きと過ごせる雰囲気作りを基本姿勢としている。		今後も継続して実施していく。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	日々のスタッフミーティング、定例のパート会議で、事業所の理念を確認し合い、実践している。今後もミーティングを重視し、理念の共有を図って行く。		今後も継続して実施していく。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入している。町内会長から地域行事情報を頂き、定例の盆踊りやせいと焼き(どんと焼き)の他、防災訓練にも参加し、地元の方々と交流している。デイと共催の秋祭りには地域の方をお招きし、ソーメン流し、すいか割りなど盛大に実施する他、グループホーム独自で駐車場で近所の子供たちと一緒に花火大会なども恒例化している。		催事以外の地域交流にも参加して行きたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	年一回の自己評価、外部評価を樹に、事業所の理念を再確認している。秀峰会のグループホーム事業部では各グループホーム合同で評価の項目別検討を行っており、特に日常活動に密着した項目の点検・反省・改善に生かしている。評価を前向きに捉え、ホームの長所、改善すべき点を認識し、日々の活動に活かしている。		今後も継続して実施していく。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	横浜市泉区では、運営推進会議発足の19年度は地域の8グループホーム合同で開催したが、20年度からホームごとの開催へ移行している。ホームの活動状況をさらに詳細に報告できるようになり、メンバー間の意見交換が活発になった。		今後もグループホームの活動をご理解いただく場として、活かしていきたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	横浜市泉区主催の泉区グループホーム連絡会の他、区役所で行われている泉ケアマネフォンテ、地域包括支援センター主催のケアマネ連絡会に参加し、行政と交流している。		今後も継続して行っていく。
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	開所当初から、毎月お手紙を発送し、管理者によるお知らせ、担当職員によるご利用者に関する報告を行っている。ご面会時やお電話での報告も行っている。旅行や遠出、各種イベントに際しては参加、協力をして頂いている。また帰宅願望の強い人の場合には夕方、決まった時間に電話してくれるよう話し、協力してもらっているご家族もある。		ご面会の時間が取れないご家族への報告をより充実させて行きたい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に苦情窓口についての説明を載せ、契約時に説明している。面会時などに積極的に聞き取りに努めている。		今後も継続して実施していく。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動や離職を抑える努力をしている。変わる場合の利用者へのダメージを極力防ぐようチームケアに徹し、徐々になじみの関係を作る配慮をしている。		今後も離職を最小限に抑える努力をする。
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内でも各種研修の機会がある。また、外部の研修を積極的に受ける機会を設けている。新規入所職員に対するプログラムを実施しており、最近超ベテラン職員の受入も同じプログラムで実施した。兎角、分かっていると端折り勝ちな引継ぎがキチンと為される面で有効であり、今後の継続を期待している。	○	各職員の資質向上とモチベーションアップアップのため、研修受講の機会を多く取り入れていきたい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	横浜高齢者グループホーム連絡会、神奈川県グループホーム協議会に加入。相互研修、地域の連絡会などの勉強の機会を設けている。法人内外に拘らず広く交流する機会を持つことを支援したい。		今後も継続して実施していく。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用決定までに、本人、家族の見学の機会や、ホーム内のアクティビティに参加する機会を設けたり、ご家族との連絡を頻繁に行い、相談に応じている。見学、体験の機会を設定し、徐々にホームの雰囲気になじめるよう配慮して行きたい。		今後も継続して実施していく。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり助けていただきながら、生活のパートナーとして一緒に過ごし、支えあう関係を大切にしている。これを事業所の基本姿勢とし、今後も実践して行く。		今後も継続して実施していく。
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の言葉、行動から、心の内の希望を把握するよう努めている。全職員で情報を集め、検討している。各職員が本人の希望、意向を把握し、全体で共有して行く。		今後も継続して実施していく。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ご利用者やご家族の意向を伺い、職員が汲み取った本人のニーズを基に介護計画を作成している。		今後も継続して実施していく。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	期間に応じて見直しを行っている。期間内に生じた変化については話し合いの上、職員間の連絡ノートにて情報共有している。		今後も継続して実施していく。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の状況、要望を把握し、柔軟な支援を心掛けている。ホーム内外の各スペースを有効活用している。1Fのデイサービスの活用も有効である。利用者の生活支援の幅を広げ、柔軟な対応をしていきたい。		今後も継続して実施していく。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	全利用者について、月二回の訪問診療を導入している。突発的な疾病にも往診にて対応する。かかりつけ医の紹介により、関係医療機関での受診も可能になっている。ほぼ全員の利用者について、訪問歯科診療も導入している。訪問看護ステーションとの有機的連携も定着している。		かかりつけ医との連携を更に強化していきたい。
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	医療連携体制についての説明の際、家族と重度化や終末期について話合った。かかりつけ医、看護職との話し合いも行っている。今後も、本人、家族、かかりつけ医、看護職と繰り返し話し合うよう努め、方針を共有していきたい。		今後も継続して実施していく。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	本人の尊厳を損なわないような言葉かけや対応をするよう配慮している。職員間で利用者の情報を申し送る際、個人名をイニシャルに代えて呼んでいる。特に、言葉かけの配慮は常に意識するよう、繰り返し振り返る機会を設けるようにしている。		今後も継続して実施していく。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課は決まっておらず、その日、その時の利用者の心身の状態、ペースに合わせて対応している。突然の外出の要望に対応したり、必要に応じて気分転換を図るなど、臨機応変に対応している。今後も、利用者主体のケアを推進して行く。		今後も継続して実施していく。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員と一緒に食事の準備をし、食事を味わい、片付けを行うことは、開所当初から一貫して徹底し、利用者一人ひとりの力を発揮できるよう努めている。また、食べ物や盛り付けの好み、食べやすい形などを把握し、実践している。本人の好みをさらに取り入れる工夫をしていきたい。		今後も継続して実施していく。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一人ひとりが好むタイミングや希望、心身の状況に合わせて臨機応変に対応し、入浴を楽しめるよう支援している。		今後も継続して実施していく。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	家事全般に関して、その日その時の一人ひとりのできる力、わかる力、意欲を最大限に活かした役割活動を支援している。ホーム内の楽しみ事その他、買い物、喫茶などの外出は日常的に行っている。生活の中での張り合い、喜び、達成感が得られるような支援をして行く。		今後も継続して実施していく。
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	その日によって、喫茶、衣類や食べたい物の買い物、散歩に行きたいとの要望が出る事があり、希望にそって支援している。外出でリフレッシュできるよう、また希望を表せるような支援を今後も行っていく。		今後も継続して実施していく。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	全ての職員が鍵をかけないケアの大切さを認識し、取り組んでいる。		今後も継続して実施していく。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的に避難訓練を行っている。また、大家さんの協力を得られるよう働きかけている。防災用備品をそろえている。利用者が避難できる方法を全職員が身につけられるよう、確認を徹底していく。大家さんとの関係を良好に保つよう、働きかけを継続したい。		大家さんとの関係を良好に保つよう、働きかけを継続したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量の記録をとり、傾向がわかれば対応を工夫している。一人ひとりの食べ方、好み、習慣を大切にしている。水分確保のための工夫に努めている。観察を怠らず、一人ひとりに合わせた工夫を行っていく。		今後も継続して実施していく。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	好みの音楽を流したり、テーブルや洗面所に季節の花を飾り、廊下には行事の写真を展示し、心地よく過ごせるように配慮している。音の大きさに配慮したり、窓からの光が強すぎないようにレースのカーテンを使い、調整している。利用者、家族、外部からのお客様が居心地よく過ごせる空間作りに努めていく。		今後も継続して実施していく。
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ソファにもなるベッドを標準装備している。床にじゅうたんを敷き、その上で布団を敷いて寝るスタイルなど自由。本人の習慣を大切にしている。家庭から愛着のある家具の他、写真などが持ち込まれている。		今後もその人らしい居心地の良い居室作りを考えていきたい。



# 自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かして下さい。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

## ○記入方法

### [取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的に客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

### [取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

### [取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

### [特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

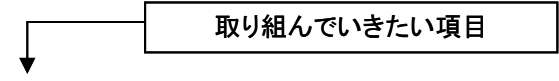
## ○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名 (ユニット名)	グループホーム風の生活館
所在地 (県・市町村名)	神奈川県横浜市泉区和泉町5932-3
記入者名 (管理者)	山近あゆみ
記入日	平成 21年 6月 30日

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )



項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>				
<b>1. 理念と共有</b>				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者の力を発揮できるような関わり、生活を共にするパートナーとしての関わり、その人らしく生き生きと過ごせる雰囲気作りを基本姿勢としている。		今後も継続していく。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	日々のスタッフミーティング、定例のパート会議で、事業所の理念を確認し合い、実践している。		今後もミーティングを重視し、理念の共有を図りたい。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	運営推進会議で、事業所の理念に基づく実践を紹介している。また、月一回の家族へのお手紙で、管理者からのメッセージや利用者の暮らしぶりをお伝えしている。		地域の方々へのアプローチに力を入れていきたい。
<b>2. 地域との支えあい</b>				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている	犬の散歩など、日常の何気ない場面で声をかけ合うお付き合いをしている。また、施設の一階のフロアを利用して、流しそうめん、すいか割りのイベントや、秋祭りで近隣の人を招き、交流を深めている。		イベントにお誘いし、良好な関係作りに努めたい。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入している。運営推進会議にて町内会長から地域の行事等の情報をいただき、定例の盆踊りやせいと焼き(どんと焼き)の他、防災訓練にも参加し、地元の方々と交流している。		催事以外の地域交流にも参加していきたい。
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)

6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>地域ケアプラザで行われる民生委員との交流会を通じ、地域に貢献できることがないか、検討している。</p>	○	<p>主に地域の民生委員が定期的開催しているサロンへの参加によって、グループホームや認知症ケアについて理解していただき、気軽に相談していただける関係作りに努めたい。</p>
---	---	--	---	--

### 3. 理念を実践するための制度の理解と活用

7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>年一回の自己評価、外部評価を樹に、事業所の理念を再確認している。評価を前向きに捉え、ホームの長所、改善すべき点を認識し、日々の活動に活かしている。</p>		<p>今後も継続して行っていく。</p>
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>横浜市泉区では、運営推進会議発足の19年度は地域の8グループホーム合同で開催したが、20年度からホームごとの開催へ移行している。ホームの活動状況をさらに詳細に報告できるように、メンバー間の意見交換が活発になった。</p>		<p>今後もグループホームの活動をご理解いただく場として、活かしていきたい。</p>
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>横浜市泉区主催の泉区グループホーム連絡会の他、区役所で行われている泉ケアマネフォンテ、地域包括支援センター主催のケアマネ連絡会に参加し、行政と交流している。</p>		<p>今後も継続して行っていく。</p>
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>地域包括支援センターとの交流により、情報を得ている。</p>		<p>制度を学び、必要な人が活用できるよう支援したい。</p>
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>泉ケアマネフォンテに参加する事により、地域のケアマネジャー、地域包括支援センター、行政と、虐待についての話し合う機会を得ている。</p>		<p>高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を定期的に持っていく。</p>

項目

取り組みの事実  
(実施している内容・実施していない内容)

(○印)

取り組んでいきたい内容  
(すでに取り組んでいることも含む)

### 4. 理念を実践するための体制

12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	わかりやすい説明を心がけ、話し合いを十分に行い、ご理解をいただいている。		今後ご理解いただけるよう、努めていきたい。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に苦情窓口についての説明を載せ、契約時に説明している。意見、不満、不安などを気楽に職員や管理者に表せる機会を作るようにしている。		今後も同様に行っていく。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	開所当初から、毎月お手紙を発送し、管理者によるお知らせ、担当職員によるご利用者に関する報告を行っている。また、預かり金の出納帳を同封している。ご面会時やお電話での報告も行っている。		ご面会の時間が取れないご家族への報告をより充実させていきたい。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に苦情窓口についての説明を載せ、契約時に説明している。面会時などに積極的に聞き取りに努めている。		今後も同様に行っていく。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回のパート会議では、積極的に意見や提案が出され、また、日常的にも積極的に意見交換しており、これを反映させている。		今後も職員の意見を積極的に取り入れていきたい。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	ご利用者の状況の変化に合わせ、勤務時間帯の変更を行っている。		ご利用者やご家族の状況の変化や要望に柔軟に対応できるよう、職員と話し合い、検討していきたい。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動や離職を抑える努力をしている。変わる場合の利用者へのダメージを極力防ぐよう、徐々になじみの関係を作る配慮をしている。		今後も離職を最小限に抑える努力をする。
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
	○職員を育てる取り組み			

19	運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内でも各種研修の機会がある。また、外部の研修を積極的に受ける機会を設けている。	○	各職員の資質向上とモチベーションアップアップのため、研修受講の機会を多く取り入れていきたい。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	横浜高齢者グループホーム連絡会、神奈川県グループホーム協議会に加入。相互研修、地域の連絡会などの勉強の機会を設けている。		法人内外に拘らず広く交流する機会を持つことを支援したい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	事業所の現状を把握し、必要に応じ、面談などを行いサポートしている。		今後も重点的に取り組んでいきたい。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員が毎日、日報を送信することにより、ホームの現状、職員の努力、実績を報告しており、それに対するコメントにより、ホーム全体のモチベーションアップにつながっている。また、研修参加の呼びかけもしている。		今後も、意欲を持って勤務できる環境作りを目指す。

## II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

### 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応

23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談から利用に至るまでのご見学や訪問の機会に、本人の不安や願いに耳を傾け、受け止める努力をしている。		今後も取り組んでいきたい。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	初回相談から、利用に至るまで、疑問点、不安なことがあったらいつでも相談を承る旨を何度もお伝えし、その都度対応している。		今後も利用以前から家族と信頼関係を築くよう努めたい。
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた際、本人と家族のニーズを見極め、場合によって地域のケアマネジャーにつなげるなど、必要な対応に努めている。		相談援助できるようスキルアップしていきたい。地域の他事業所との連携し、支援したい。

26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用決定までに、本人、家族の見学の機会や、ホーム内のアクティビティに参加する機会を設けたり、ご家族との連絡を頻繁に行い、相談に応じている。		見学、体験の機会を設定し、徐々にホームの雰囲気になじめるよう配慮していきたい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり助けていただきながら、生活のパートナーとして一緒に過ごし、支えあう関係を大切にしている。		これを事業所の基本姿勢とし、今後も実践していく。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族からの相談に応じるだけでなく、家族に相談する場面も多い。本人を共にケアする関係により、多大なる協力をいただいている。		家族への連絡、相談をこまめに行い、共に本人を支える関係を継続していきたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人と家族双方が望む関係を理解した上で、無理なく、より良い方向を共に考え、支援している。入居により本人と家族の関係が良好になったケースがある。		家族へのケアを今後も重視していきたい。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人の面会、友人との外出を楽しんでいるケースがある。いつでも気軽にホームを訪ねていただける雰囲気を大切にしている。また、友人とゆっくり外出を楽しめるよう、送り迎えをするなど支援している。		日頃から本人が会いたい人、行きたい場所についてお聞きし、本人のその時々状況に合わせて支援したい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	一人ひとりの個性を大切に、利用者が主体的に関わり合う場面は極力見守り、利用者が力を出し合える環境作りに努めている。		今後も、共同生活を共に営む仲間同士の関係を見守り、必要な支援をしていく。
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	利用終了後も家族からの相談に応じている。		今後も継続して行っていく。

### Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

#### 1. 一人ひとりの把握

33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の言葉、行動から、心の内の希望を把握するよう努めている。全職員で情報を集め、検討している。		各職員が本人の希望、意向を把握し、全体で共有していく。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人との会話の中で、また家族から生活歴を聞き取り、情報を得ている。ご本人の習慣、生活環境、サービス利用の経過等は、入居前に把握するよう努め、入居後も情報収集を継続し、ケアに活かしている。		今後も継続して行っていく。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	家族への聞き取りから、本人の過ごし方、心身状態、持っている力を予め把握するよう努めている。入居後一日の過ごし方が変化したり、新たに発揮する力もあるので、現状を常に見極めるよう努めている。		常に現状を見極めるスキルを全職員で追求したい。

#### 2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し

36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ご利用者やご家族の意向を伺い、職員が汲み取った本人のニーズを基に介護計画を作成している。		今後も継続して行っていく。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	期間に応じて見直しを行っている。期間内に生じた変化については話し合いの上、職員間の連絡ノートにて情報共有している。		今後も継続して行っていく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケア実践は個人記録に記入している。個人記録ノートに特記事項や個人記録の詳細を記載し、バイタルサインの観察を週一回記録している。これらを介護計画の見直しに反映させている。		新たな気づきやケア実践の情報の共有に努めていきたい。

3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の状況、要望を把握し、柔軟な支援を心掛けている。ホーム内外の各スペースを有効活用している。	利用者の生活支援の幅を広げ、柔軟な対応をしていきたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域包括支援センターでの区内の民生委員との顔合わせに参加している。また、アニマルセラピーや手工芸、ぬり絵に関わるボランティアの協力を得て、支援の幅を広げている。	民生委員の他、各地域資源とのネットワーク作りを推進していきたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	法人内外の地域のケアマネジャーとの連携を密にとっている。他のサービス事業者と連携すべく、地域のケアマネジャー連絡会を通じて情報収集に努めている。	本人のニーズに応じた支援が出来るよう、今後も地域の事業者との連携を深めていきたい。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターでの研修会に参加したり、運営推進会議を通じて情報共有している。	地域包括支援センターとケアマネジメントを協働できる体制作りを努めたい。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	全利用者について、月二回の訪問診療を導入している。突発的な疾病にも往診にて対応する。かかりつけ医の紹介により、関係医療機関での受診も可能になっている。ほぼ全員の利用者について、訪問歯科診療も導入している。	かかりつけ医との連携を更に強化していきたい。
項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)		(○印) 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	随時相談できる認知症専門医を検討している。	認知症専門医に関する情報収集に努めたい。
	○看護職との協働	訪問看護ステーションとの連携により、看護職による日常の	



45	利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	訪問看護へのニーズへの対応により、看護職による日々の健康管理の他、利用者の体調の変化があった場合、いつでも電話連絡にて気軽に相談できる体制が整っている。看護職による指示、訪問、かかりつけ医への連絡など、きめ細かい対応により、医療面での支援が行えている。		かかりつけ医、看護職との連携をさらに強化していきたい。
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	医療相談員、病院の看護職との情報交換を密にしている。かかりつけ医と入院先の医師の情報共有により、退院に向けての支援がスムーズに行えている。		かかりつけ医を中心とした連携を強化できるよう、良好な関係を維持していきたい。
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	医療連携体制についての説明の際、家族と重度化や終末期について話し合った。かかりつけ医、看護職との話し合いも行っている。		本人、家族、かかりつけ医、看護職と繰り返し話し合うよう努め、方針を共有していきたい。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	日頃からかかりつけ医、看護職と連携し、利用者の今後の変化に備えている。	○	重度化や終末期におけるチームとしての支援のあり方を学び、実践に向けて準備していきたい。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	住み替えによるダメージを布防ぐために、移り住む居所へ詳細な介護サマリーを提出しており、そこに連絡先として管理者名を付した。問い合わせが来た際は、本人のケアについての相談に応じている。		今後も継続して行っていく。
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
	○プライバシーの確保の徹底			

50	一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	本人の尊厳を損なわないような言葉かけや対応をするよう配慮している。職員間で利用者の情報を申し送る際、個人名をイニシャルに代えて呼んでいる。		特に、言葉かけの配慮は常に意識するよう、繰り返し振り返る機会を設けたい。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	本人の希望を表せる雰囲気作り、自ら決定できるような対応を心掛けている。利用者一人ひとりの「わかる力に合わせた説明」について職員間で話し合い、実践に努めている。		一人ひとりの力に合わせた納得できる声かけ、説明が出来るようさらにスキルを上げていきたい。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課は決まっておらず、その日、その時の利用者の心身の状態、ペースに合わせて対応している。突然の外出の要望に対応したり、必要に応じて気分転換を図るなど、臨機応変に対応している。		今後も、利用者主体のケアを推進していきたい。
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	美容院に出かけたり、鏡の前で身だしなみを整えたり、化粧品やマニキュアを使って本人の好むおしゃれを楽しめるよう支援している。		理・美容院への外出を出来る限り継続したい。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員と一緒に食事の準備をし、食事を味わい、片付けを行うことは、開所当初から一貫して徹底し、利用者一人ひとりの力を発揮できるよう努めている。また、食べ物や盛り付けの好み、食べやすい形などを把握し、実践している。		本人の好みをさらに取り入れる工夫をしてきたい。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	飲み物については、コーヒーが好きな人、冷たいものが好きな人、熱いものは冷ましてから、など好み・状況に合わせて楽しめるようにしている。また、個人が好きなおやつ、酒類を選んで買い、好きな時に楽しめるよう支援している。		一人ひとりの状況を見守りつつ、自由に好きなものを楽しめる支援を継続したい。
<b>項目</b>		<b>取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)</b>	<b>(○印)</b>	<b>取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)</b>
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	個人の排泄パターンの情報について、各職員が気付いたことを申し送りや個人記録で共有している。自尊心への配慮を大切にして支援している。		一人ひとりの今の力と習慣をさらに追求して、支援の方法をその都度検討していく。
	○入浴を楽しむことができる支援			

57	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一人ひとりが好むタイミングや希望、心身の状況に合わせて臨機応変に対応し、入浴を楽しめるよう支援している。		今後も継続して行っていく。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	一人ひとりの生活リズム、その日の活動の状況に合わせて睡眠の支援を行っている。寝具については、ソファベッドが備え付けで、その上に使い慣れた布団を敷くスタイル。床にじゅうたんを敷き、その上に布団を敷くスタイルにしたり、介護用ベッドを使用するなど自由である。		心地よい休息のため、一人ひとりの生活習慣、一人ひとりに適した環境作りにも一層配慮していく。

(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援

59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	家事全般に関して、その日その時の一人ひとりのできる力、わかる力、意欲を最大限に活かした役割活動を支援している。ホーム内の楽しみ事その他、買い物、喫茶などの外出は日常的に行っている。		生活の中での張り合い、喜び、達成感が得られるような支援をしていく。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望や力に応じて、家族と相談の上、お金を所持したり、使えるよう支援している。		全職員が、本人がお金を持つことの大切さを理解し、一人ひとりの希望、力を見極めて支援の方法を検討していく。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	その日によって、喫茶、衣類や食べたい物の買い物、散歩に行きたいとの要望が出る事があり、希望にそって支援している。		外出でリフレッシュできるよう、また希望を表せるような支援を今後も行っていく。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	家族とともに普段は行けないところに出かけられる機会がある。美術館やデパートへのショッピング、外食など、個別に対応する機会を作っている。		利用者の「行ってみたい」ところを知り、出かけられる機会を作るよう努めていく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人自らが電話をかけたり、手紙のやり取りが出来るよう支援している。		今後も通信の自由を支援していく。
	○家族や馴染みの人の訪問支援	家族や馴染みの人の訪問支援		

64	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族、友人、隣近所の人に人など、馴染みの人にしか訪問する機会がある。居室、ホールを使ってゆっくり過ごしていただいている。面会時間の制限はせず、気軽に訪問できる雰囲気大切にしている。		温かく出迎え、馴染みの関係を続けられるよう支援していく。
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束を行わないということを全ての職員が正しく認識しており、身体拘束のない見守りのケアを実践している。		今後も身体拘束を行わずに最善の代替手段を検討していく。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	全ての職員が鍵をかけないケアの大切さを認識し、取り組んでいる。		今後も継続していく。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	本人のプライバシーに配慮しつつ、また、自由な行動を妨げることのないよう、さりげなく様子を把握し、見守っている。		常に意識し、実践出来るようスキルアップに努めていく。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	生活感のある環境を大切にし、注意の必要な物品を扱う場合は、一人ひとりの状況、力に応じた必要な配慮を必要時に行っている。		危険を防ぐために一律に物品をなくすのではなく、状況をよく見極め、生活の場としての空間作りのために工夫をしていきたい。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	定期的な避難訓練、誤薬、転倒を防ぐための対策など、事故防止のための勉強会や研修を行っている。		一人ひとりの状態をよく見極め、事故防止の取り組みを強化したい。
<b>項目</b>		<b>取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)</b>	<b>(○印)</b>	<b>取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)</b>
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	救急法の研修を行っている。		定期的に研修を行うことにより、全ての職員が繰り返し学び身につけていく。
	○災害対策			

71	火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的に避難訓練を行っている。また、大家さんの協力を得られるよう働きかけている。防災用備品をそろえている。		利用者が避難できる方法を全職員が身につけられるよう、確認を徹底していく。大家さんとの関係を良好に保つよう、働きかけを継続したい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	その方らしく暮らすために、起こり得るリスクについて家族等に説明し、対応策を話し合っている。		その方が望む暮らしとリスク、対応策について、家族等と共に考えていきたい。
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	バイタルサインをよく観察し、気付きを連絡ノートに記載し、情報を共有し、対応に結び付けている。緊急性の高い場合は、かかりつけ医や看護職に速やかに相談している。		体調変化への速やかな対応に努めていく。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの薬の情報は「医療ファイル」に保管、職員が随時閲覧できるようにしている。服薬内容の変更についてもその都度周知している。		全職員の薬についての理解を深め、服薬による症状の変化を観察できる視点を養っていきたい。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘が及ぼす影響を職員はよく理解している。予防として、カスピ海ヨーグルトの他、飲食物の工夫を行っている。日常生活の中で、身体を動かす働きかけをしている。		一人ひとりの便秘の状況を把握し、予防と対応を継続していく。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	訪問歯科医と連携し、日常的に口腔状態を観察している。適切な口腔ケアを実施している。		今後も継続して行っていく。
<b>項目</b>		<b>取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)</b>	<b>(○印)</b>	<b>取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)</b>
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量の記録をとり、傾向がわかれば対応を工夫している。一人ひとりの食べ方、好み、習慣を大切にしている。水分確保のための工夫に努めている。		観察を怠らず、一人ひとりに合わせた工夫を行っていく。
	○感染症予防			

78	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	入居時感染症に関する診断書を提出してもらっている。年一回のインフルエンザの予防接種を実施している。ノロウイルス対策のための清掃方法を実行している。		感染症に関する研修受講などを継続的に行っていく。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理用具等は主に夜間に消毒を実施している。生活の場としての衛生管理に注意を払っている。食材は新鮮で安全なものを使用している。年一回、衛生管理講習会に出席している。		生活の場としての適切な衛生管理に努めたい。
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>				
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	2階建てで、1階がデイサービス、2階がグループホームになっている。敷地の周り、庭、ウッドデッキ、玄関周りには、枇杷の木の他、様々な樹木が植えられ、四季折々の花が咲き、親しみやすく美しい環境が整えられている。		親しみやすく、安心して出入りできる環境整備、工夫をしていきたい。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	好みの音楽を流したり、テーブルや洗面所に季節の花を飾り、廊下には行事の写真を展示し、心地よく過ごせるように配慮している。音の大きさに配慮したり、窓からの光が強すぎないようレースのカーテンを使い、調整している。		利用者、家族、外部からのお客様が居心地よく過ごせる空間作りに努めていく。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	大勢が集うリビング以外のこじんまりとしたスペース(廊下、洗面所など)にも椅子を配置し、利用者が一人になれたり、利用者同士でくつろいだり、職員と利用者が一対一でゆっくり関わる際、活用している。		スペースを活用して、利用者同士で思い思いに過ごせる雰囲気大切にしていける。
<b>項 目</b>		<b>取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)</b>	<b>(○印)</b>	<b>取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)</b>
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ソファにもなるベッドを標準装備している。床にじゅうたんを敷き、その上で布団を敷いて寝るスタイルなど自由。本人の習慣を大切にしている。家庭から愛着のある家具の他、写真などが持ち込まれている。		その人らしい居心地の良い居室作りを考えていきたい。
	○換気・空調の配慮			

84	<p>気になるにおいや空気の上よみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>	<p>起床時の換気は徹底しており、その他の時間帯の換気もこまめに行っている。冷暖房もその人に合わせ、適宜調節している。</p>		<p>外気温と大きな差が無いよう配慮し、こまめな調節に努める。</p>
<p>(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</p>				
85	<p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>出来る限り、安全に自立した生活を送れるよう、手すりやシャワーチェアなどの介護用品を活用している。</p>		<p>一人ひとりの身体機能に合わせた環境整備を検討していきたい。</p>
86	<p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>	<p>一人ひとりの分かる力を日常生活の中で見極め、混乱や失敗を防ぐ工夫をしている。トイレの目印や居室の表札をつけたり、見やすい位置にカレンダーや時計を配置している。生活の場としての雰囲気壊さないように配慮している。</p>		<p>利用者のわかる力を生かした工夫、自立に向けての工夫をしていきたい。</p>
87	<p>○建物の外周りや空間の活用</p> <p>建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>	<p>ベランダでは、利用者が洗濯物干しを行ったり、ベンチに座ってくつろいでいる。1階のウッドデッキは大人数で利用できる。陽をあびながら身体を動かしたり、お茶を飲むなど有効活用している。庭の花摘みや枇杷の収穫も楽しんでいる。</p>		<p>外周りの環境を今後も有効に活用していきたい。</p>

## V. サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない



項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・「ご利用者主体」をテーマに掲げ、職員は利用者の思いに寄り添うことを軸にして、チームワークで日々の活動を展開しています。独自の研修方法により、新入職員は、「ご利用者との関わりによりその人を知り、自ら気付き、考え、行動できるスタッフ」を目指して学び、サポートするスタッフは、新入職員の気付きから学び、ケアに生かしています。
- ・スタッフ会議では、ご利用者お一人お一人の思い、願いを大切に話し合いを重ね、活動に活かしています。
- ・買い物や喫茶、外食、美容院、地域の催事他、入居者のその日その時の思いや状態に合わせて、日常的に臨機応変に外出することで、リフレッシュを図っています。自らの意欲で自らの足で地域を歩き、社会と繋がり続けることを支援しています。
- ・愛犬ちどりもホームのメンバーとして、ご利用者とスタッフを時には癒し、時には大いに活発にしてくれています。
- ・24時間365日体制で訪問看護ステーションと連携、かかりつけ医の訪問診療を導入し、ご利用者の健康を見守り、必要な医療を受けられるようサポートしています。
- ・開所から8年が経過しましたが、開所当初から変わらずにご利用者お一人お一人の力を発揮していただく支援を続け、ご利用者の状況は変わっても、お一人お一人が個性を大いに表現している雰囲気はそのままです。地域の皆様とのつながりを大切に、大切に、日々、日々生き生きと暮らしていただくことを目指しています。